

緊急事態の中での

定例会を振り返って

議長 金澤 俊

市民の皆さま、それぞれに新年度をお迎えになりましたこと、心からお慶び申し上げます。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い市民生活や企業活動に大きな影響が生じており、市民の皆さまには心からのお見舞いを申し上げます。

先般の第6回苫小牧市議会定例会において、初日に岩倉市長から市政方針、五十嵐教育長から教育行政執行方針が示され、その数日後に、苫小牧市内での新型コロナウイルスの感染者発生が確認されました。

我々としては市民の安全安心を第一に考え、感染拡大の抑制と対応に追われる市職員に対し最大限の協力をするという趣旨から、緊急の代表者会議を開き、会期と審議項目などの見直しをおこないました。

結果、会期を7日間短縮し、代表質問及び新年度予算委員会の質疑時間も大幅に短縮をしての実施

となりました。

また、各員会は継続審査へ、議会議改革検討会も閉会中の開催と変更し、傍聴者の制限や議場内でのマスク着用と消毒液による手の消毒の励行もおこないました。

おかげさまで、無事に新年度予算を可決し市民生活への影響を最小限に食い止めることができました。

また、議会休会中の4月23日には、大きな影響を受けている企業や市民への支援策や感染拡大防止策を盛り込み、苫小牧市議会として岩倉市長にコロナウイルス関連の諸対策について申し入れをおこないました。

今後も市民の皆さんに寄り添い、事態の収束に向け議員、事務局が一致団結して取り組んで参りますので、今後ともよろしく願います。



議会議改革の

取り組みを振り返って

副議長 藤田 広美

市民に開かれた議会を目指し、福祉の向上および市政の発展に寄与するため、苫小牧市議会基本条例を平成31年4月に施行しました。

その後の7月には条例の議員研修会を開催しました。また、この条例に盛り込まれた全員協議会を11月に開催し、議員定数については今後の議会議改革検討会で結論を出してまいります。

議会議改革は「できることは速やかにおこなうことが大事」との思いから、市議会を身近に感じてもらえる機会として始めた議場コンサートは、令和2年2月で5回目の開催となり、皆さまから好評を得ています。さらに、定例会を傍聴された方に、とまチヨップポイントの付与を始めたことに加え、

議場内においても議員や市側、傍聴者の水分補給を可能にしました。このほか、定例会終了後の正副議長記者会見を開始したことや、傍聴者へのアンケートを実施し、

その結果を市議会ホームページで紹介するなど、市民への情報発信にも取り組んでいます。

議員力向上に向けては、地域福祉の現状を知るため、社会福祉協議会の勉強会を企画・開催しました。今後も勉強会や意見交換の場を設けていきたいと思えます。

一方、ICT化の推進では、ペーパーレス化をはじめ、速やかな情報伝達と情報共有化など効果が大きいことから、タブレットの導入を前提に実務者会議を設置して議論を続けています。またタブレットを活用したデモンストラーションもおこない早期に本格導入を目指してまいります。

これからも議会の機能強化と、市民に開かれた議会を目指して改革をさらに推進してまいります。

